

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676500087
法人名	医療法人 たからべ会
事業所名	グループホーム たからべ
所在地	鹿児島県曽於市財部町下財部1318番地9 (電話) 0986-72-1677
自己評価作成日	令和3年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①利用者の方も高齢化し、昨年から今年にかけて利用者の入退所がありました。母体が医療法人であるので医療連携がスムーズに行われました。
- ②スタッフ全員が正職員で、離職者が少なく入居者とのなじみの関係が良好に保たれています。
- ③当施設は県道2号線沿いにあり、閑静な住宅街で周りが他の建物や樹木で囲まれたようになっているため台風の季節も風当りが弱く過ごしやすいです。また高台でもある為水害の恐れもありません。
- ④職員の資格取得に対して協力的に推進しています。
- ⑤スタッフ間の人間関係が良好で楽しく働けている為、ケアに良い影響を与えていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は運営母体の医療機関と24時間医療連携体制が整っており、定期的受診や職員看護師の健康管理等の連携も密で、日常および緊急時の対応に適切な医療を受けている。
- ・コロナの為、地域交流は自粛しているが、通常は地域の美容院や地元住職の法話、小学生や保育園児との交流、認知症に関する相談を受ける等、福祉に関する情報発信源としての拠点である。
- ・事業所として職員の資格取得に対して支援を行い、管理者も研修会への参加を奨励している。
- ・全職員が正規職員で有資格者が多い。長期勤務者が多く利用者との信頼関係が厚い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	申し送り時やミーティング時に理念の確認を行っている。	理念は、パンフレットに記載、玄関やホールに掲示し、毎朝唱和している。職員会議やミーティングで振り返り、全員が理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 散歩や外気浴の際に、近隣の方と挨拶を行っています。 コロナ禍で願成寺住職様による法話では中止していますが感染状況を見ながら再開したいと思えます。 	コロナ感染防止の為に、地域行事や買い物・訪問美容・子供たちとの交流・寺の住職の法話等を自粛している。近所の馴染みの住民と散歩であいさつをしたり、野菜の差し入れは今も続いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター主催の研修会に参加し事業所としての取り組みを模索している。 認知症ホームの会や多職種連携の会への参加。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の構成員の皆様には書面で報告を行っています。今後の感染状況を見ながらホームでの開催を検討中です。	2ヶ月毎に実施しているが、事業所の状況や事故報告・ヒヤリハット・外部評価報告等をコロナ禍の為、書面で報告し意見は電話や書面でいただいている。出された情報を共有し、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曾於市主催の認知症ホームの会に参加し、認知症カフェに協力していく。 ・定期的に窓口へ訪問し、顔なじみの関係を構築していく。 	<p>市担当者には窓口に出向いたり支所の窓口で、実情報告や取り組みを話して意見やアイデアをもらっている。市や地域連絡会等の研修はコロナ予防の為、オンラインで行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を設けており身体拘束廃止についての勉強会も行っている。現在まで身体拘束ゼロで今後も身体拘束廃止に努めていく。</p>	<p>3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、勉強会も行っている。特に言葉遣いに注意し、玄関の施錠を含め拘束のないケアに取り組んでいる。職員には周知徹底を図っている。外出希望の時は職員が同行して、身体を拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内でも勉強会を行い、日頃から会話による心理的な虐待につながらない様に言葉使いに気をつけている。また、身体的虐待防止についても初心に戻り職員同士で意識を高めている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する勉強会を事業所内で行っている。また、外部による研修に参加し事業所内で最新の情報を共有していきたい。</p>	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、一方的に説明するのではなく御家族の話に耳を傾け時間をかけて納得・理解を得られるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者様の意見・不満・苦情に対しては随時カンファレンスを行い解決策の検討をしている。ご家族においては面会時に気が付いた事や希望・要望等の有無を尋ねている。また、玄関に「ご意見箱」を設置している。</p>	<p>利用者からは日常の関わりの中で意見や要望を聴いている。利用者の意見は随時カンファレンスをしている。家族の面会は窓越しで行い、電話でも話している。生活全般のことが多い。意見は職員全員が共有し、運営に活かしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティング等で意見を出し合ったり、普段から何かあればその都度上げてもらう。すぐにできるものであれば、即実行している。</p>	<p>職員の意見は毎日の申し送りやミーティング・職員会議で活発に出されている。全員が正規の職員で勤務歴も長く、現場の思いを汲み取り、管理者の対応が早い。個別の相談も随時管理者に相談している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人であるため給与水準、労働時間は変更できないが、日々の勤務に関しては柔軟に対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部からの研修案内に対しては、テーマ毎の希望、あるいは順番に均等に研修に参加できるように配慮している。たからべ会での研修への参加も呼びかけがある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市主催の認知症ホームの会、ケアマネ支部会、多職種連携の会を通じて知り合った他の事業所との交流を図っている。また、市内の介護職員間によるグループワークにも参加し同業者との交流も図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族、担当ケアマネ、サービス事業所より入手した情報をもとに入居者様と日常会話の中から不安や要望を聞き出し安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に御家族と話して困り事や要望等を聞いている。安心して利用して頂けるようにコミュニケーションを図り、信頼関係を構築していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様にとって、どこで生活するのが一番良いのかを考え御家族と一緒に検討を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・洗濯物たたみ・テーブル拭き・豆の鞘取りなどを一緒に行っている。入居者様の思い出話に傾聴し、歌を一緒に口ずさんだりして過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙で時季話題や入居者様の状況報告をしたり面会時に近況報告をして情報共有してる。また、御家族が遠方の入居者様は毎月電話で話ができるように環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会人が来た時は次回の面会を楽しみしていることを帰り際に声掛けしている。また、外来受診などに入居者様の生活されていた地域を通過し懐かしい景色を見れるように努めている。	コロナ禍の為、面会はガラス越しである。電話の取次ぎで話ができている。買い物も職員が代行して、希望のものを買いに行っている。訪問美容師が来てくれている。行きたいところには受診時に車から降りずにドライブしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様、怒りっぽい入居者様、無口な入居者様等個性がある。その時のニーズに合わせて座席配置を行っている。そして、孤立する入居者様がないように職員が入居者間での調整役をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は同系列病院に入院された方は見舞いに行き近況を伺ったりしていた。今後は感染状況を見ながら行っていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向に沿えるよう努めている。意思表示が難しい方はご家族から情報を得て参考にしている。	夜ゆっくりした時間や入浴の時、希望や意向を聞いている。困難な時は家族と話し合い、思いを聞いている。以前利用していたところからの情報も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やこれまで関わってこられた方々から情報提供していただき記録している。入居後落ち着いた頃に希望を聞いたたりご本人の発せられる言葉からヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、身体状況の記録（排泄の有無・血圧・体温・食事と水分摂取量）を行い体調把握をしている。体調変化時は随時、対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング、毎月のミーティングで気付いた事や意見を出し合い介護計画に反映させている。また、毎朝の申し送りでも必要に応じてカンファレンスを行っている。	本人や家族・必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。モニタリングは年2回、見直しは医師の意見を聞き年1回または変化がある時はその都度見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、その日の様子やケアの記録を毎日介護記録に記入している。毎朝、申し送り時に職員で情報共有を行いより良いケアへつなげられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・御家族の要望に応じて柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は地域の住職が毎月訪問され、お経・法話をして頂いていた。夏季には子供達も訪問し歌・肩たたきなどをして交流を図っていた。今後の感染状況を見て再開していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族同意のもと、かかりつけ医療機関に受診し緊急時も素早い対応ができています。	本人や家族の希望するかかりつけ医を支援している。定期受診は職員が同行し、専門医療機関は家族または職員が同行している。24時間医療連携体制を構築し、緊急時の対応など適切な医療を受けている。歯科は訪問診療である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職場内の護職員に相談できている。協力医療機関への定期受診により入居者様・医療機関職員共に顔なじみになり親しい声掛けがでている状況にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は、ご家族や病院の主治医・看護師・ケースワーカーと情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の家族・かかりつけ医などと相談し方針を共有している。</p>	<p>契約時に重度化や終末期におけるホームの指針を説明し、同意書をもっている。状況変化に伴い家族に説明し、食事や水の経口摂取ができなくなった時の方向性を確認している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故発生時対応についてはミーティング時に随時対応手順の話合いをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防士立ち合いの避難訓練を行い、近隣住民へも協力依頼をして応援体制をとっている。そして、緊急災害に備え市役所より防災ラジオを支給してもらい緊急時の素早い情報を得ている。</p>	<p>消防署の指導の下、昼夜想定で年1回、自主訓練を年1回実施している。母体医療機関の消火活動にも参加している。火災や地震対策も検討している。市より防災ラジオを支給してもらった。スプリンクラーや緊急通報装置の設置もしている。備蓄は水・米・レトルト食品等を3日分用意している。カセットコンロやヘルメットもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合わせた声掛け対応をしている。そして入居者様の自尊心を傷つけないように言葉使いには十分気をつけている。	年間研修計画を基に年1回、接遇研修は毎月実施し、認知症の研修では、人格の尊重とプライバシーの確保について学んでいる。トイレ介助や入浴介助等、自尊心を傷つけないように、個々に応じて言葉かけや対応を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話で、本人の思いや要望していることを聞き出して思いに添えるように支援していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活パターンはほぼ同じなので本人の希望・要望時は可能な限り臨機応変に対応している。誕生日には「夢の個人外出」を行い行きたい所へ外出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	鏡を見るように声掛け行い、鏡を見ている姿を見た時は髪型や顔色・表情を褒めるような言葉かけをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し年齢に応じた調理方法・味付けをしている。誕生日にはリクエスト食を作り喜んでいただけている。事前の台拭きや食器の片付けを職員と一緒にやっている。	個々に応じてきざみ食・普通食・とろみ食等を提供している。ホーム内でできる誕生日の希望料理やおせち料理・甘酒を購入して楽しんでいる。食器の片付けやエプロンたみ等、一緒に行い楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事、水分摂取量を毎日記録し、少ない場合は、高カロリー飲料やスポーツ飲料を補給し栄養バランスや脱水防止に努めている。夏季は水分量を多めに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛け・毎日の義歯洗浄で口腔内の清潔保持をしている。自分で歯磨きできない入居者様は職員が義歯磨きをしたり歯磨きをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	健康チェック表にて排泄時間をチェックしトイレへの声掛け・誘導を行い排泄支援している。また、オムツ使用している入居者様も日中はトイレ誘導を行い自然排泄を促している。	個別のチェック表で排泄パターンに合わせて声かけし、トイレ誘導している。排泄の自立に近づけるように支援している。夜間はポータブルトイレを使用している場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表で排便確認行いスムーズな排便がない時は水分を多めに補給したり腹部マッサージをして自然排便を促している。便秘時は主治医指示にて下剤服用し排便調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回入浴施行。体調に応じて入浴日を変更したり清拭を行うこともある。立位困難な入居者様にはシャワーチェアを使用し安全・安楽な入浴支援をしている。	入浴は週2回、午後を基本に行っているが、本人の希望で柔軟に支援している。体調や気分に合わせて入浴日の変更や清拭の支援をしている。状況に応じ2人介助でシャワーチェアでも行い、安全な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転防止にて日中はレクや手作業、テレビ視聴・新聞の読み聞かせ等を行い生活リズムを作っている。個々の体力に応じ日中もベッド臥床時間を設け休憩している入居者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投与・内服管理は全職員で行い、薬の変更などがあった時は、介護支援経過に記録し申し送りノートにも記入している。その後の経過観察も行い記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせレク・掃除等を行っている。レクではカレンダー作成、貼り絵、色塗りなどを行い達成感が得られるようにしている。拭き掃除や洗濯物畳み等役割分担している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍前は、県下一周駅伝大会応援に行ったり、買物・花見・ドライブなどを行っていた。今後の感染状況を見ながら行ってきたい。</p>	<p>駅伝の応援や大型店舗での買い物・花見・ドライブ等で外出していたが、感染防止の為に自粛している。受診後のドライブを楽しんでいる。終息すれば、行事計画を立てて外出できるように支援していく。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣いは事業所にて一括してお預かりしている。コロナ禍前は、外出の買物での支払いを職員と一緒にしていた。今後の感染状況を見ながら行って行きたい。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者様からの要望時は御家族などにいつでも電話ができるようにしている。御家族から手紙、ハガキがきた時は代読したりしている。年賀状など利用者様に書いていただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースはカーテンで調光し、懐かしい音楽を流したりしている。そして、室温・湿度を確認しエアコン使用にて環境調整している。玄関・ホールには季節毎の飾りつけや写真を貼ったりして自然に会話が増えるような空間を作っている。</p>	<p>共有スペースは広く採光や温度・換気に配慮し、室内環境を整えている。プランタに野菜や花を栽培している。壁には手作りの切り絵や作品を掲示し、花を飾り、季節感を取り入れて居心地良く暮らせる工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関側のベンチは日当たりが良いので陽を背中に当てながら日光浴し世間話をされている。食堂では気の合った利用者様同士会話を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常で使う置時計・くし・鏡などは使い慣れた物を使用している。居室棚には御家族との写真や自分で作成したカレンダーを飾ったりしている。	居室はエアコン・ベッド・木の棚が設置されている。寝具はリースである。毛布・テレビ・椅子・テーブル・鏡・ラジオ・時計・位牌・家族写真等を身近に置き、安心して暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーである。移動・移乗に必要なローカ・トイレ・脱衣場・風呂場等には手すりを設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない